

農業



令和7年6月号

会誌 No. 1731

目次

巻頭言

不確実性の時代、どうする食料安全保障……………室本 隆司 3

論壇

関税議論を契機に地方分権をあらためて考える……………荘林幹太郎 4

農業・農村担い手問題研究会

第3回「農業・農村担い手問題研究会」の開催について…………… 6

農事功績者座談会

土地利用型法人の経営戦略と地域農業への貢献……………工藤 修 20

現地指導者のコメント……………高橋 政光 26

意見交換…………… 27

食を楽しむ

大阪・関西万博：グリーン産業の担い手たちへの羅針盤……………尾藤 環 36

研究の最前線

青森県リンゴ新品種の商業化の特徴と課題……………黄 孝春 37

農業・農村の現場から

放置竹林の解消と竹パウダーによるジャガイモの防疫……………鎌田 則幸 47

—長崎県立諫早農業高等学校の取り組み—

世界の農業は今

EUにおける農業・農村の新たな動き……………奥田 充 51

—オランダ農業におけるロボットの開発と利用の現状—

私の経営と志

埼玉県熊谷市で野菜生産……………鈴木 裕作 56
—地元のおいしい野菜をつくり続けるために—

農家の気持ち

米粉パンで日本の農業を元気に……………小林由紀子 58

東京農業大学収穫祭から

タイ王国の移りゆく食生活……………小林 小糸 59
—地域別に見た暮らしと食文化の多様性—

統計情報

2023（令和5）年産米生産費（組織法人経営体、個別経営体）……………63

農政情報……………64

編集部から……………64

支会インタビュー

大日本農会新潟支会の紹介……………岩淵 忠男 65

大日本農会だより……………66

表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

琉球王国時代の「抱護」が育む多良間島の持続的農業システム (沖縄県多良間地域)

平坦な孤島の多良間島は台風や季節風の影響を強く受け、琉球王国時代から風水思想による抱護を幾重にもめぐらし、自然災害を緩和してきました。先人達は島の外周を浜抱護（海岸防風・防潮林）、集落を囲む村抱護、集落を抱く北側背後地の腰当森（クサティムイ）、屋敷抱護、そして農地抱護という、独特の林帯を防風・防潮効果の高いフクギやテリハボクを主林木に植栽して、暮らしと農業を育んできました。抱護は希少種を含む生物多様性の役割を果たしております。島の地質は透水性の高い琉球石灰岩が分布しており河川が形成されず、ため池や地下水を貴重な水資源として利用してきました。

本地域はサトウキビと畜産の耕畜連携による資源循環型農業を営み、県内初のサトウキビ全農家がエコファーマー認定を受けるなど、水質や環境の保全に取り組んでいます。

島は、祭祀などの伝統行事も多く、「多良間島の豊年祭（国指定重要無形民俗文化財）」や豊穰を祈る「スツブナカ」、「麦・粟プーリ°（祭り）」など豊作を祈願する祭りが継承され、村落共同体組織や「ユイマール（互助）」の精神が脈々と生きています。

（写真：多良間村総務財政課、文：多良間村農業遺産推進協議会事務局 来間 玄次）